

# 第15回大阪消防清風会総会開催

## 170名が参加盛大に行なわれる!!



村井大 大阪市連合防火協力会副会長

恒例の昭和五十六年度、大阪消防清風会総会が、十七日午後三時から、都島区綱島町の太閤園において、村井八郎、大阪市連合防火協力会副会長をはじめ各来賓のご臨席を得て、会員、七〇名の参加のもと盛大に開催されました。

まず始めに、消防職員、殉職並びに他界された先輩、同僚の御霊に対し黙とうを捧げた。引き続き飯田会長から「本会も発足以来十五年目を迎え、年々会員数も増加し事業も順調に進んでいることは、来賓の皆様のご支援ご教導の賜も、このお蔭であります。今後とも健康にご留意の上、本会運営にご協力をいただきました。次に来賓を代表して村井大氏を本会の顧問に、高槻市杉森雄雄氏を理事に選出することを囑申しあげたことを事務局から報告し、議事が滞りなく終了した。

最後に、去る四月一日の人事異動で消防局長に就任された榎崎局長から「諸先

的役割をはたしておられることは誠に心強い。今後とも災害のない街づくりにご尽力いただきたい。また本会がなごやかな雰囲気の中で親睦の輪をさらに広げられるよう祈念しております。」との祝辞が述べられ、議事に入った。

まず会前により議長に飯田会長を推し、議案審議に入り事務局から、去る六月三十日の理事会において審議された昭和五十五年度事業結果並びに歳入歳出決算報告が行われ、続いて皇正監事からも監査結果が報告され、承認を得た。

次に同じく理事会において審議承認された昭和五十六年度事業計画並びに歳入歳出予算(別表参照)の説明と、前消防局長の深澤修氏を本会の顧問に、高槻市の杉森雄雄氏を理事に選出することを囑申しあげたことを事務局から報告し、議事が滞りなく終了した。

最後に、去る四月一日の人事異動で消防局長に就任された榎崎局長から「諸先



なごやかな懇談会

輩の集かれた輝かしい大阪消防の伝統と立派な陣容を礎として使命達成に最善を尽くす」との決意が述べられ、同時に「今後とも大阪消防発展のため会員の皆様のご支援をお願いします。」とのあいさつがあり第一部総会が終了した。

引続いて、第二部の懇談会に移り第一部と同様、青木常任理事の司会で進められ、先ず飯田会長から「会員の皆様のご協力により無事議案審議も終了でき感謝します。」とのあいさつがあり、例年ですと続いて大島市長から祝辞を賜わる手筈となっておりましたが市会との都合でどうしても時間がとれず祝辞を省いて、小川顧問の力強い乾杯の音頭で懇談に移った。久しぶりの再会と相まって先輩、同輩が現役時代の思い出や現況などを語り本日出席できなかった方々に思いを馳せ楽しい雰囲気の中で時の過ぎるのも忘れ定刻の午後五時、大塚顧問の発声で万歳を三唱し盛会のうちに終了した。

### 叙勲の光栄に感激

赤井次郎

私は、秋の生存者叙勲に際し消防界並びに、地域社会に尽した功績により、勲四等旭日小綬章受章の栄誉に浴しました。

これは、先輩、同僚を始め多くの市民の皆様御陰と深く感謝いたしております。

今度の消防関係受章者は三六〇名で内、元消防吏員は七二名で他は消防団の団長、副団長の方々であります。最高年齢者は八三歳で全国各地で永年、国民の生命財産を火災等から護り国家社会に貢献した強者ばかりで新装なった日消会館の伝達式場は感激と、よくぞ消防人になった、又内助の功を盡した晴着の御夫人の方々も消防人を主人に持つた喜びを満面に笑みを浮かべた幸福感で一杯でした。

伝達式から参内、拜謁と生涯想ひ出の感激の一日です。

私は、計らずも晴の舞台での受章、答辞等大阪消防の感激と栄誉を満喫したのであります。

天皇陛下から多年それぞれの職域又は、地域に於て国家、社会に盡した功績を讃えるお言葉と、今後、健康に思まれ国家、社会のため盡す事を希望するとのお言葉を賜りました。

新宮殿春秋の門でのご拜謁とお言葉は今後の私達に希望と勇気を興へていただきました。私は馬金を重ねて七十年、古稀とは云え男子平均年齢七十三才に達して居らないのでこの光栄を機会に更に十年、二十年と長く社会人として活動し、消防人としての誇りと栄誉を末長く保持したいと念願いたします。

ここに清風の紙面を利用して心から感謝申し上げます。





### 叙勲に輝く人々

昭和五十六年の生存者叙勲において、次の方々が受章されました。

#### 春の叙勲 (昭和五十六年四月二十九日付)

-  勲五等双光旭日章  
元大阪市消防監  
**岩崎延雄 (70才)**  
京都府福知山市戸田七六三
-  勲六等瑞宝章  
元大阪市消防司令長  
**岩本栄吉 (65才)**  
八尾市志紀町西二一四 府住七九一
-  勲六等瑞宝章  
元大阪市消防司令  
**西村捨次郎 (74才)**  
淀川区加島 二二二七四

#### 秋の叙勲 (昭和五十六年十一月三日付)

-  勲四等旭日小綬章  
元大阪市消防司監消防局長  
**赤井次郎 (70才)**  
東住吉区西今川 四二一九一三
-  勲六等瑞宝章  
元大阪市消防司令長  
**奥貞学雄 (63才)**  
都島区都島中通 二一七七一
-  勲六等瑞宝章  
元大阪市消防司令  
**田中勝次郎 (75才)**  
住之江区粉浜 一三三二六
-  勲六等瑞宝章  
元奈良市消防監  
**村野久夫 (70才)**  
泉大津市池園町 九二二七

### 榎崎局長の横顔

四月一日付で、前消防局長深澤修氏が退任され、後任として榎崎浩二氏が就任されました。

略歴  
昭和3年12月10日生まれ、大阪市出身▽28年3月、大阪大学法経学部法学科卒▽28年4月、大阪市採用水道局勤務▽41年7月、水道局業務部庶務課長▽43年4月、公聴部庶務課長▽44年4月、総務局人事課課長▽46年6月、総務局公聴部長▽48年4月、公園局管理部長▽50年7月、養育局長▽53年4月、大阪市学校教育振興公社副理事長▽54年6月、経済局長

### 叙勲の光栄に浴して

村野久夫

昭和五十六年十一月三日文化の日の良き日に、叙勲受章の発表の光栄に浴し、誠に感激に堪えません。

十一月十三日東京虎ノ門の落成式いまだならぬ新装なった日消ビル大ホールに於いて叙勲勲章伝達式が行われました。

私は妻同伴で出席致しました。伝達式は消防庁長官の式降があり続きまして長官より受章者に夫々勲記と勲章の伝達が行われ受章者全員一斉に勲章を佩用し、そして御花(菊の花)着用し引続き来賓の祝辞が日本消防協会会長、全国消防長会々長等より夫々行われ、最後に消防関係受章者三六〇名の受章者を代表して、このたび勲四等旭日小綬章受章に浴されました元大阪消防局長、赤井次郎殿が力強く誠に素晴らしい謝辞を述べられました。

いとも厳肅に伝達式は以上をもって終了いたしました。これより受章者並に同伴者等一同は夫々皇居へ向いました。間もなく皇居に到着。宮内庁職員案内により素晴らしい新宮殿の春秋の間に案内されました。春秋の間に素晴らしい大壁画、

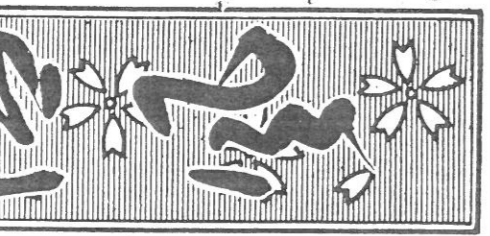
日を見はるばかりのシャンアリヤ、誠に素晴らしい。初めて真下に陛下に拜謁すると言う気持で緊張の連続でした。間もなく陛下が御座所にお着になられ陛下より誠に有難たいねぎらいのお言葉を賜り、この瞬間胸の奥のどこからともなくこみ上げる感動感激は我々勲章受章者、そして同伴者のみか味合う瞬間でありました。只々日頭が熱くなるのを感じた次第でございます。この感激と感動こそは妻と共に生涯忘れぬ事が出来なない思い出となる次第でございます。こうした光栄と感激に浴し得ました事は、これ備えに上りもなおおきす大阪消防の上司の方々、先輩の方々、同僚友人の方々のご指導ご支援の賜物であります。心から厚く厚く御礼申し上げる次第でございます。この感動と感激、光栄こそ忘れぬ事なく一層健康に留意し精進していかなければならぬと思つている次第でございます。

最後にこのたびの私の受章に際しと御重なるご祝詞を賜りました清風会の方々また大阪消防の多くの方々に対しこの紙上をおかりして厚く御礼申し上げます。



深澤前局長

榎崎新局長



大阪消防清風会会報

(第17号)  
発行  
大阪消防清風会  
大阪府西成区新町1丁目26番3号  
大阪消防局内  
TEL(06)531-0601(代)  
発行人 飯田博

### 昭和55年度歳入歳出決算書

1. 歳入金 1,609,135円  
 1. 歳出金 1,549,816円  
 1. 差引残高 59,319円 (翌年度へ繰越)

款	項	目	予算額	収入金額	支出金額	増△減
1 会議費	1 会費		982,000	982,000	△76,000	△76,000
	1 定額会費		36,000	30,500	△5,500	△5,500
	2 終身会費		255,000	267,000	△12,000	△2,500
	3 過年度会費		7,000	4,500	△80,000	△80,000
	4 総会会費		760,000	680,000	△1,200	△1,200
2 雑入金	1 雑入金		129,200	128,000	△1,200	△1,200
3 補助金	1 補助金		100,000	100,000	0	0
4 雑収入	1 補助金		100,000	100,000	0	0
	1 雑収入		144,745	171,080	26,335	26,335
	1 雑収入		80,000	80,000	0	0
	1 雑収入		64,745	91,080	26,335	26,335
	1 雑収入		228,055	228,055	0	0
	1 雑収入		228,055	228,055	0	0
歳入	合計		1,609,135	1,609,135	△50,865	△50,865

款	項	目	予算額	流用増△減	支出現額	不用額
1 会議費	1 会議費		835,000	0	742,200	92,800
	1 総務費		760,000	0	702,900	57,100
	2 事務費		75,000	0	39,300	35,700
2 事務費	1 需要費		280,000	277,116	2,884	0
	1 消耗品費		85,000	85,000	0	0
	2 備品費		15,000	14,000	0	0
	3 印刷製本費		20,000	20,000	0	0
	2 通信費		50,000	△2,400	47,600	0
	1 運送費		195,000	△11,600	183,400	2,884
	1 運送費		262,500	45,500	180,516	2,884
3 事業費	1 連絡費		251,000	39,000	308,000	0
	1 印刷費		80,000	80,000	0	0
	2 名簿印刷費		171,000	39,000	210,000	0
	2 雑費		11,500	6,500	18,000	0
	1 雑費		11,500	6,500	18,000	0
4 積立金	1 積立金		222,500	222,500	222,500	0
	1 積立金		222,500	222,500	222,500	0
5 子備費	1 子備費		60,000	△45,500	14,500	14,500
	1 子備費		60,000	△45,500	14,500	14,500
歳出	合計		1,660,000	1,660,000	1,549,816	110,184

項	目	取入	支出	残金
昭和55年3月末日残高				874,819
平山禮難者市恩金		90,000		784,819
領金		20,005		804,824
昭和55年度積立金		222,500		1,027,324
差引昭和56年3月末日現在高		128,000	899,324	

### 昭和56年度歳入歳出予算書

1. 歳入金 1,720,000円  
 1. 歳出金 1,720,000円  
 1. 差引 0円

款	項	目	本年度予算額	前年度予算額	前年度に比し増△減
1 会議費	1 会費		1,206,000	998,000	208,000
	1 定額会費		33,500	36,000	△2,500
	2 終身会費		270,000	195,000	75,000
	3 過年度会費		2,500	7,000	△4,500
	4 総会会費		900,000	760,000	140,000
2 雑入金	1 雑入金		180,000	129,200	50,800
3 補助金	1 補助金		180,000	129,200	50,800
4 雑収入	1 補助金		100,000	100,000	0
	1 雑収入		174,681	144,745	29,936
	1 雑収入		174,681	144,745	29,936
	1 雑収入		80,000	80,000	0
	1 雑収入		64,745	64,745	0
	1 雑収入		228,055	228,055	0
	1 雑収入		228,055	228,055	0
歳入	合計		1,720,000	1,600,000	120,000

款	項	目	本年度予算額	前年度予算額	前年度に比し増△減
1 会議費	1 会議費		975,000	835,000	140,000
	1 総務費		975,000	835,000	140,000
2 事務費	1 需要費		75,000	75,000	0
	1 消耗品費		270,000	280,000	△10,000
	2 備品費		10,000	85,000	△75,000
	3 印刷製本費		10,000	15,000	△5,000
3 事業費	2 通信費		50,000	20,000	30,000
	1 連絡費		200,000	195,000	5,000
	1 印刷費		200,000	195,000	5,000
	2 名簿印刷費		160,000	262,500	△102,500
	2 雑費		90,000	80,000	10,000
4 積立金	1 雑費		70,000	171,000	△101,000
	1 雑費		30,000	11,500	18,500
	1 積立金		225,000	162,500	62,500
	1 積立金		225,000	162,500	62,500
5 子備費	1 子備費		60,000	60,000	0
歳出	合計		1,720,000	1,600,000	120,000

この予算は項目について彼此流用できるものとす。

昭和56年6月30日

会長 飯田博

昭和56年9月15日死亡  
 安屋澄夫氏  
 昭和56年9月26日死亡  
 昭和56年9月26日死亡  
 八幡二郎氏  
 昭和56年9月5日死亡  
 住吉消防署長  
 住吉消防署長  
 阿倍野消防署長  
 鶴見消防署長  
 城東消防署長  
 旭消防署長  
 生野消防署長  
 東成消防署長  
 東淀川消防署長  
 淀川消防署長  
 西淀川消防署長  
 南消防署長  
 天王寺消防署長  
 大正消防署長  
 港消防署長  
 西消防署長  
 山根達氏  
 昭和56年5月26日死亡  
 谷原九三蔵氏  
 昭和56年6月23日死亡  
 大原明義氏  
 昭和56年6月26日死亡  
 坂屋豊二氏  
 昭和56年6月26日死亡  
 中川富一氏  
 昭和56年7月28日死亡  
 吉元武雄氏  
 昭和56年8月1日死亡  
 中村正雄氏  
 昭和56年8月2日死亡  
 中川久吉氏  
 昭和56年8月10日死亡  
 榊井弘氏  
 昭和56年9月5日死亡  
 八幡二郎氏  
 昭和56年9月15日死亡  
 昭和56年9月15日死亡  
 昭和56年9月26日死亡

大阪市の現況  
 10月1日現在  
 ○消防署 25所  
 ○消防出張所 25所  
 ○職員数 3563名  
 ○一般職員 3563名  
 ○警防機械 3563名  
 ○ポンプ車 171台  
 ○救急車 115台  
 ○特殊車 3台  
 ○消防艇 3台  
 ○その他 152台  
 合計 390台

# 火の始末終に安心明い暮らし

(57年度大阪市防火標語)

大阪市消防局幹部  
 局長 消防司 監 萬代 信雄  
 副局長 消防正 監 馬口 越崎  
 総務部長 消防正 監 新堂 真  
 総務課長 消防正 監 西尾 昌  
 人事課長 消防正 監 荒木 昭  
 予防部長 消防正 監 河木 博  
 予防課長 消防正 監 隆 夫  
 予防部主幹 消防司 長 三 彦  
 予防部主幹 消防司 長 石 田 繁  
 予防部主幹 消防司 長 中 田 俊  
 予防部主幹 消防司 長 今 西 恒  
 予防部主幹 消防司 長 川 恒 遠  
 予防部主幹 消防司 長 山 川 烟  
 予防部主幹 消防司 長 太 田 山  
 予防部主幹 消防司 長 片 山 金  
 予防部主幹 消防司 長 山 口 隆  
 予防部主幹 消防司 長 滝 本 京  
 予防部主幹 消防司 長 村 喜 久  
 予防部主幹 消防司 長 杉 村 喜 久  
 予防部主幹 消防司 長 本 田 大  
 予防部主幹 消防司 長 山 本 吉  
 予防部主幹 消防司 長 林 田 隆  
 予防部主幹 消防司 長 井 谷 弘  
 予防部主幹 消防司 長 此 花 國 本  
 予防部主幹 消防司 長 東 矢 部 俊  
 予防部主幹 消防司 長 西 矢 部 俊  
 予防部主幹 消防司 長 大 岡 小  
 予防部主幹 消防司 長 天 王 寺 大  
 予防部主幹 消防司 長 南 高 橋  
 予防部主幹 消防司 長 西 淀 川 寺  
 予防部主幹 消防司 長 淀 川 吉  
 予防部主幹 消防司 長 東 淀 川 辰  
 予防部主幹 消防司 長 東 成 谷  
 予防部主幹 消防司 長 生 野 林  
 予防部主幹 消防司 長 旭 村  
 予防部主幹 消防司 長 城 東 中  
 予防部主幹 消防司 長 鶴 見 松  
 予防部主幹 消防司 長 阿 倍 野 下  
 予防部主幹 消防司 長 住 之 江 八  
 予防部主幹 消防司 長 住 吉 倉  
 予防部主幹 消防司 長 東 住 吉 川  
 予防部主幹 消防司 長 平 野 西  
 予防部主幹 消防司 長 西 成 山  
 予防部主幹 消防司 長 水 上 黒  
 予防部主幹 消防司 長 川 一 夫



# 新入会員紹介

(昭和56・10・1以降)

氏名	〒	住 所	電 話	職 業 (会社名)	退職時の 所属(年月)
石崎 忠	573	枚方市宮之阪4丁目1-13	(0720) 49-7113		福島 S.56.9
尼崎 正男	547	大阪市平野区長吉六丁目1-9-7			生野 S.56.9
石橋 恒夫	579	東大阪市布市町3丁目9-6	(0729) 84-1658	アサヒ産業株式会社 (0720) 73-0011	城東 S.56.1
杉 勝己	577	東大阪市福田1765-2	(06) 745-6075		都島 S.56.8
長澤 太郎	586	河内長野市日東町2番3号	(0721) 63-9140	田辺製菓株式会社 (06) 205-5101	福島 S.56.6
榮 明	619	京都府相楽郡精華町菅井北等37-26	(07749) 4-2954		西淀川 S.56.4
斎藤 亮	581	八尾市橋松町1丁目1-26	(0729) 93-3790		東淀川 S.56.9
今井 貞夫	580	松原市河合3丁目7-17	(0723) 36-3327		西 S.56.6
華岡 晴之	594	和泉市阪本町5番地9	(0729) 41-6505	大阪防災管理株式会社 (06) 531-2714	大正 S.55.8
金元 繁	557	大阪市内西区区潮路1丁目6-23	(06) 659-4897		西 S.55.12
山口 進	544	大阪市内野区舍利寺2丁目12-20-209	(06) 712-5320		生野 S.56.10
真鍋 忠政	555	大阪市内西淀川区歌島4丁目8-6	(06) 474-0225		西淀川 S.56.10
橋川 勇	569	高槻市八丁西町3-7	(0726) 83-1616	焼加藤コングレスビルヂヤ (06) 271-7947	北 S.56.3
若狭 光	678	明石市西明石南町1丁目9-8	(078) 922-0862		西淀川 S.56.10
藤本 孝繁	636	奈良県磯城郡三宅町字石見607	(07454) 4-2565		西 S.56.11
高山 久夫	617	京都府長岡京市天神5丁目19-3	(075) 932-5713	司会課 S.56.10	
三股 辰夫	598	泉佐野市泉ヶ丘123-80	(0724) 63-1432		北 S.56.10
島田 義秋	544	大阪市内野区勝山北2丁目3-15	(06) 717-7773		平野 S.56.11
秋山 辰雄	636	奈良県生駒郡平群町藤原1900-104	(0754) 5-2349		吹上 S.56.11
西村 茂徳	544	大阪市内野区豊南1丁目12-21	(06) 757-1097		東 S.56.10
園田 好男	559	大阪市内住之江区中加賀屋2丁目9-11	(06) 685-6480		北 S.56.11
梶尾 光男	546	大阪市内東住区住道美田1丁目26-28	(06) 703-4469		港 S.56.12
芝池 川勝	580	松原市阿保6丁目1-3	(0723) 31-2976		西 S.56.11

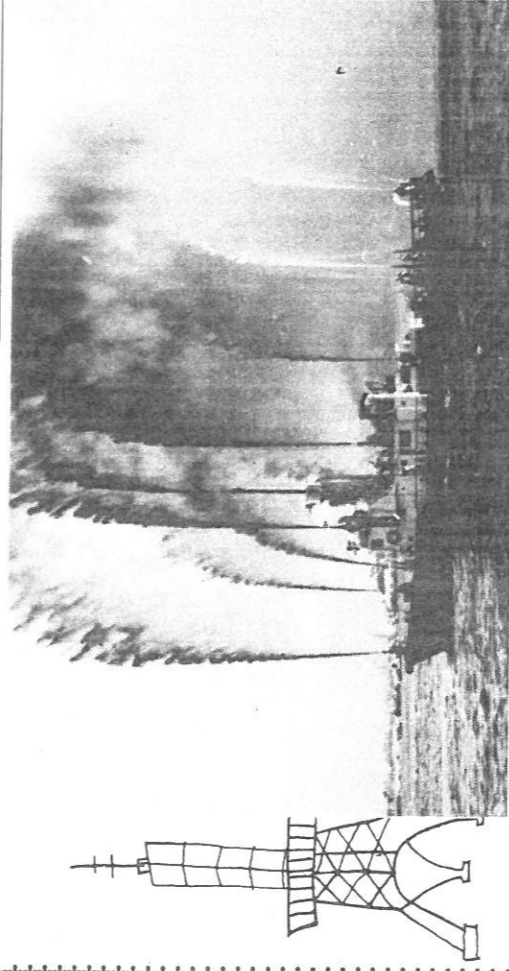
# 会員住所変更

氏名	〒	住 所	電 話	職 業 (会社名)	退職時の 所属(年月)
森本 未吉	538	大阪市鶴見区放出東3丁目16-12			天王寺 S.58.3
竹田 きよえ	586	河内長野市小田山田町4510104		人事課 S.45.5	
下川 勝知		堺市緑ヶ丘南町4丁目1-4			東 S.21.4

# 出初式の案内

◎大阪市消防出初式  
 十一月六日(水)  
 午前十時  
 ○分

- 一 ところ 北区桜の宮公園 帯
- 二 参加機械 七〇台
- 三 参加人員 一〇〇〇名



社団法人

# 大阪市防火管理協会

会長 小林 洋

高級紳士服御詔 専門店  
高級既製服

# 宮崎洋服店

宮崎 茂  
 〒573 枚方市岡山手町9番10号  
 TEL (0720) 41-2544

# 建物の総合管理

- (昭和43年9月1日創立)
- ★定年退職後のあなただの……
- ★消防の経験を活かせる……
- ★安定した職場です。

# 大阪防災管理株式会社

社長 赤井 次郎 (元大阪市消防局長)  
 大阪市内西区西本町1丁目6番2号  
 (地下鉄四ツ橋線 本町駅下車)  
 TEL 06 (531) 2714 (代)  
 自宅 06 (797) 1525  
 担当 荒山 貞夫  
 気軽に相談ください。

# 運命 家相 鑑定所

# 神霊学易断本部

大教正 北村 勝大  
 鑑定士 大  
 大阪市住吉区墨江東2丁目17番地  
 TEL (06) 673-6786  
 出張所  
 TEL (0722) 23-6348番

# 通天閣の思い出

和直中 妙

庶民の歓楽街新世界の象徴である通天閣、私はその通天閣を眺めながら通勤している。  
 それにつけても、この附近(阿倍野筋五丁目)で十七才まで住んでいた私にはエッフェル塔をモデルにしたという、見馴れた昔の通天閣が懐しい。日が暮れると「ライオン歯磨」のイルミネーションが点滅し、夜空に光彩を放っていた姿が今も懐にはつきりと焼きついている。  
 大阪府発行の「大阪百年史」によると、通天閣は第五回国内勲業博覧会を終った後、跡地の一部は天王寺公園となり、その西側約一三〇、〇〇〇平方メートルの払い下げを受けた大阪土地建物会社から、ルナパークとともに大林組が工事を引受けて建設し、明治四十年七月三日に開業式をあげたとあり、高さ七五メートル、全部鉄骨で組み立てられ、工費は当時の金で九七、〇〇〇円、超高層建築物の無かったその頃は日本一の高さを誇り、展望台にあると、大阪近郊は勿論、淡路島から六甲、生駒まで一望のもとに眺められたという。  
 ところが、朝夕眺めながら育った私が、通天閣に昇ったのは後にも先にもたった一度で、それも召集令状を手にして、三日後に中部第三十二部隊に入営するという昭和十七年八月二十一日の午後、思い出の一つの昇り納めとなってしまった。

通天閣が無くなったことを知ったのは、北支の戦線を受けた伯母の慰問文員によるもので、「あなたの好きな新世界が大きな火事の中で焼け、そのため通天閣が取り壊された」という文面を繰り返し読み、戦友達にかくれて一人泣いたものである。  
 昭和十八年一月十六日、映画館大橋座の二階から出火した火災は、たちまち隣接の新世界花月をはじめ映画館、劇場、キャバレー、一、店舗六など二、〇〇〇平方メートル余を焼失したが、この火災で通天閣の隣脚も真っ赤に焼け、危険な状態となったので、政府の金属回収の方針に従って所有者吉本興業が翌二月に解体工事を行い、陸軍に鉄資源として献納したと聞いている。(工事費の半分は大阪市が負担)  
 二十一年七月、無事に復員した私は再び大阪の土を踏むことができたが、焦土の中に朝日に輝く通天閣に比べ、通天閣の姿を見ることができなかつた。  
 現在の通天閣が建設されたのは三十二年十月、つい先頃二十五を迎えたという間に、聞やテレビで報道されていた。



ご苦労さまでした!  
 25年間大阪湾を守りつづける

# 明光丸

25年間大阪湾を守りつづける

東洋一の性能を誇る消防艇として、二十五年間にわたり大阪湾で活躍を続けてきた「明光丸」九七トンが老朽化のため、十月二十四日の放水訓練を最後に引退した。  
 明光丸は、昭和三十一年七月に就航、(全長二九、二メートル、船幅五、八メートル、最大速度二三・五ノット、一分間の放水能力二六、〇〇〇リットル)炭酸ガス消火装置なども装備されており、東洋一の消防艇と謳われ海上消防の主力として活躍、災害現場にデビューしたのは、就航半年後の三十二年一月、此花区梅町の岸壁で発生した木造船の爆発事故、この事故で五人を救助したのを皮切りに、三十二年三月、貨物船「イトラ号」の積み荷火災では、十四時間にあわつて消火活動を行い、四十八年には、浸水した曳船の排水作業を四時間にあわつて行

うなど、その威力を発揮した。  
 また、一方では、三十二年十月三十一日、四十一年二月二十二日の、天皇、皇后陛下の御臨幸の際には、壮麗な奉迎放水を行った。  
 就航以来の延べ航行距離は、一三三三〇キロと地球を三分の一周した勘定になり、また、この間、約一四七、〇〇〇人の市民らが明光丸を見学した。  
 最後の放水訓練は、午前十時三十分から行なわれ、計二〇人を乗せた赤と白の

流線型のスマートな船体は水上消防署の棧橋を離れ、安治川内港をゆつくりと旋回したあと、十口の放水口を全開して直上放水、クシヤク型の扇形放水へと実施され、二十五年の歴史に別れを告げた。  
 なお、五十四年十二月に就航した新鋭の消防艇「なみはや」(二三四トン、放水能力毎分三〇、〇〇〇リットル)が、明光丸の後継として、双胴艇、ときわ丸とともに大阪湾の守りにつ